

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成26年3月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675100111
法人名	有限会社 フェルナンデス
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	鹿児島県伊佐市菱刈重留1173番地 (電話) 09952-24-1688
自己評価作成日	平成26年2月24日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりの生活が、理念の「ゆっくりゆったり家庭的な環境の中であなたの声を聴き、意思の尊重をし、あなたらしい生活ができるよう努めます」に基づいた暮らしになるように、生活の中で出来る事の能力を生かせるよう心掛けながら日々取り組んでいます。また日常の中に楽しみをという観点から四季に合わせた催しを実施し、面会や外出、外泊、年に2回の家族を招いたイベントを実施しながら、ご利用者を囲む人たちの関係づくりにも努力しています。

入所されてからも主治医は個人のかかりつけ医を継続して頂いていましたが、さらに訪問看護による医療体制を導入したことで、これまでより、より細かく幅広いニーズへの対応で新たに実績を残すことができました。

また希望される方には協議を重ねながら看取りへの取り組みを行っており、実績を重ねています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊佐市の郊外に立地し、開設13年目となる地域でも中核的な存在のグループホームで法人は他にも訪問介護事業所、デイサービス、有料老人ホーム、グループホームを運営して長年、地域の高齢者福祉の一端を担っている。

ホーム周辺は郵便局や商業施設などがあるため日常的に散歩がてらの買い物に出かけるなど利用者がホームに入居してもこれまでの社会生活が継続出来るような支援が行われている。また、広い庭を利用してお茶や食事をしたり、かまどを作って焼き芋や焼き魚を楽しみ、ホーム内でもソーメン流しやバイキング、ミニ喫茶とさまざまな趣向を凝らした「食」が楽しめるような支援が行われている。外出も多く、手作り弁当持参の遠足、季節を感じながらのドライブ、初詣や手作りの旗での駅伝応援など毎月作成しているホーム便りからも趣向を凝らしたレクリエーション風景や日常の生活が良く分かり、利用者が自然体でさまざまな行事に楽しみながら取り組んでいる様子が伺われる。

自治会にも加入して、校区コミュニティ協議会の活動への協力や地域全体の災害に対する避難訓練にも参加している。また、ホームの災害対策においても近隣との協力体制が築かれ、更に地域の自主防災組織に「ひだまり班」の担当者も決められており、他にも有線放送・非常用ブザーの設置でより地域との協力体制が強化されている。

訪問看護ステーションとの契約により利用者の密な健康管理が行われており、重度化・看取りに対する支援についても、利用者、家族の要望に応えられるように医師・看護師・家族・職員がチームとなって前向きに取り組んでいる。

職員体制にもゆとりがあり、朝夕の職員が手薄になる時間帯には地域の有償ボランティアの協力が確保されて見守りやおしゃべりで力を発揮してもらっている。6名の少数で家庭的な事業所の特性を活かして質の高いサービスの提供がなされているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は施設の所々に掲示し周知している。	職員全員で作り上げた理念であり、事業所の役割を理解しながら職員に分かりやすく浸透しやすいものを作成している。介護の方向性で迷ったときなどに理念を確認するように職員に徹底させている。ホーム内、職員の目につきやすい個所に手作りのあたたかみのある壁飾りのようにして掲げている。また、外部評価の自己評価作成も理念を再確認して行うようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	自治会に加入している。近隣民家とは日常のご近所付き合いを行い交流している。地域から声かけてもらう避難訓練も実施されている。	自治会に加入して校区コミュニティ協議会の活動に協力したり地域の防災訓練への参加、有線放送、グリップコール(緊急用プザー)の設置等で事業所自体が地域の一人員として繋がっている。また、利用者も散歩や地元の商店への買い物などで挨拶を交わしたり、近隣とはおすそ分けなどで自然体での交流がある。地域の夏祭り見学や県下一周駅伝の応援などにも地域の一人員として横断幕を作成して出かけている	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近所へ外出しているときやご友人等の面会時などには声のかけ方などを言葉添えする等している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況報告や取り組みの状況などを推進会議の場で毎回報告しご意見を頂いている。	民生委員、家族、行政等の参加を得て2カ月に1回開催している。ホームの現状や取り組み内容の報告を行い、民生委員からの地域の高齢者についての話し合い等も行っている。家族にはできるだけ参加してもらえよう家族会時に行うこともあり全家族に運営推進会議が浸透している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議や地域密着型サービス協議会の場で情報を共有し、ほか必要に応じて個別に出向き相談できる関係を構築している。	運営推進会議に市役所担当と地域包括支援センター職員の参加があり、定期的にホームの実情を伝えている。民生委員の見学の受け入れも行って、介護保険制度や認知症についての勉強会なども行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束に関わる全ての事を禁止している。また勉強会を行い意識が薄れないように努めている。	重要事項説明書にも「拘束の禁止」として明記しており、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。また、職員が目につきやすいようにホーム内にも手作りの家庭的な雰囲気のために方針を明記して掲げている。毎月のミーティング時にさまざまな事例を取り上げて拘束を回避するための手段を話し合い、ときには「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」を読み上げて職員の「拘束」についての意識も確認している。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で虐待につながらないように勉強会で資料を使いながら振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用されている利用者はいないが今後必要にあれば検討していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書作成時に詳しく説明を行いわかりにくい点などは特に注意して理解の確認を行っている。また契約時以外にでも必要時は説明を行っている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置しているが投函はない。普段の面会時に些細なことでも相談やご意見が頂けるように信頼関係の構築に努めている。</p>	<p>日常の面会時や電話連絡時、家族会や催し物の際に意見・要望を聞き出すように心がけている。また、重要事項説明書に行政の窓口と第三者委員も明記されており、外部者へ表せる機会を設けている。今後は質の向上に向けて更に意見・要望を引き出せるように独自のアンケートも検討している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の声は幹部会で話し合う機会があり検討している。</p>	<p>毎月、全員参加でミーティングを行って、職員の意見・提案を引き出すようにしている。会議は職員参加型で全員が発言できるような機会を設けている。また、利用者の現状確認や必要に応じた勉強会も取り入れている。出された意見・提案については可能な限り反映できるように検討している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個人の就労への希望は採用時や申し出があった際に聴取し他の従業者との調整をしながら可能な範囲内で柔軟な対応を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得のための費用助成や希望者への勉強会、地域密着型サービス協議会への参加を促し、毎月1回のミーティング内での勉強会も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス協議会等を通じて他事業所との情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初はご本人を知るために職員全員で対象者の好きなことや得意なこと苦手なこと嫌がること等を細かく記入し意見を出し合いケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各個人の生活歴や家族関係を可能な範囲で把握し、個別化した情報を共有することで関係を構築する努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に十分に検討し、入所後は在宅で補えなかった部分のケアに取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が済ませてしまうのではなく利用者個人の能力を生かし、苦手なことへの支援を心掛けるよう日々の生活の中で声を掛け合いながら振り返っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各家族の背景を把握したうえで協議しご利用者の希望を提案するなどして絆を大切にしている。また特別な判断が必要な場合は必ずご意見をうかがうようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に利用していたデイサービスとの交流をするなどしてそれぞれの支援に努めている。	本人の希望による墓参り・買い物・手紙など家族の協力をもらいながら馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。また、友人知人の訪問もあり、訪ねやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活を観察し様子や言動などから利用者同士の関係を把握し、関わり合いをもった暮らしがより良いものになるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居による解約の場合は数例しかないがその際は情報を提供しスムーズな移行ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接的に聴取をしたり、日常の中での会話や普段の様子をよく観察し思いをくみ取るよう常に努力している。	何をするにも本人の意思確認をしてから行うように心がけている。また、日常の会話や職員の密な関わりと観察による「ご利用者の意向・思いの把握」を個人記録として作成し、職員間の情報の共有と介護計画に活かしている。他にも表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報を基にその後も本人やご家族他関係者からの情報の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな時間の流れは設定してあるが利用者一人ひとりの暮らしのリズムを把握し可能な限り実現できるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りやミーティングにて日々意見の交換を行いケアの方向性が統一できるように情報の共有に努めている。	入居時に本人、家族からの思いや意向を聴取しサービス担当者会議を開催して、個々に応じた介護計画を作成している。家族の役割も介護計画に取り入れて離れていても家族との絆が途切れないように、また、家族も共に本人を支援できるように個々に応じた個別の介護計画となっている。2カ月ごとに、モニタリングを行って、必要に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の他にも申し送りノートへの自由な記入や、気が付いた危険などを記載する書式を用いる等して活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何らかの同じ出来事が発生したとしても、本人や家族の状況に応じて個別に支援方法を変えている。入院時の支援の方法や外泊の送迎など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方や地域の方々と情報交換を行いながら日々ふれあいに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を変更せず主治医とし、受診介助している。関わりを重ねることで信頼関係構築の努力に努めている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ホームより受診同行しており、結果は随時報告している。訪問看護ステーションとの契約により密な健康管理が行われ、協力医療機関とも24時間緊急時等の連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携により定期的に情報を提供し専門的な助言や支援を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に情報提供を行い早期退院のお願いを必ず行っている。またこれまでも早期退院受け入れ実施できている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約の段階での説明に始まり、随時必要になってきた時点で、関係者で協議を繰り返し実施している。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの指針は職員全員で話し合って家族にも分かりやすい内容のものを作成し、重要事項説明書に明記して入居時に説明している。入居後は身体状況に応じて同意書と終末期及び急変時における確認書も作成し、主治医を交えて今後の方向性を話し合い、全員が方針を共有してチーム（かかりつけ医・訪問看護・職員・家族）として本人・家族の希望に沿ったホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。これまでも看取りの経験があり、勉強会や夜勤時に職員を増員させるなど職員の不安軽減に繋げている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全ての職員に実践力が備わってはいないが連絡体制の徹底を行っていることで電話による迅速やかな指示に基づき対応できている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害や火災などの避難要請時等は地域による救助担当班を設置してあり駆けつけて避難協力のシステムができていて訓練も行っている。</p>	<p>年数回、法定訓練と自主訓練を行い、地域全体での訓練にも参加して地元消防団との連携も図られている。ホームの訓練には近隣の方々にも参加してもらい、それぞれに役割をお願いしている。また、有線放送、緊急用のブザーの設置と過去に水害に遭った地域ということもあり、地域の自主防災組織に「ひだまり班」の担当者も設置されている。スプリンクラーも設置され自動通報システムには近隣住民も登録されている。また、備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格やその日の気分も考慮した声のかけ方に努めている	利用者個々に応じて声かけなど配慮しながら対応している。ミーティング時に勉強会も行い、職員自身の支援方法の振り返りを15項目のチェック表にて行うなど職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活動作の中で自己決定できるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康の維持に配慮したうえでの起床時間や食事の時間など個別に支援し、一人ひとりにあった生活を可能な限り実現するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望を汲み取り髪染めや衣類の選択等の支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日何が食べたいか？どのような調理がよいか等話題にしている。それぞれにできる事を一緒に行う。誕生日には嗜好を生かしたメニューで提供している。	個々の力量に応じて、調理や片づけなど手伝ってもらい、干し大根作り、梅干し、味噌作り、そばうち、ちまき作り、ギョーザ、巻き寿司など、利用者が楽しみながら取り組めるように工夫している。また、ミニ喫茶を開いて、おやつや飲み物を選んでもらったり、庭のかまどで焼き魚や焼き芋を作り、テントを張ってお茶や食事をすることもある。また、家庭菜園の収穫で季節を感じてもらうなど「食」を楽しめるようにさまざまな趣向を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの特徴を把握した提供を行い摂取量を毎回記録している。必要時は主治医への相談や受診を行うなどして栄養状態の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後に毎回口腔内の清潔への支援をそれぞれに合った方法で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の把握に努めそれぞれに合った方法やオムツの選択を行い、トイレでの排泄が希望の方には維持できるように下肢筋力低下防止に視点を置いた介助方法を行っている。	個々の排せつ記録を取り、排せつパターンを把握して、トイレでの排せつを支援している。気候や個々の状態に応じて、布パンツに変えることもあり、随時、見直しを行いながら支援している。自立している利用者もおり、維持できるように支援し、入居後に改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の把握を細かく行い、その状況に応じた食事形態や食品の工夫、また必要時には受診し便秘の予防に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や好みに合わせ入浴の周期や希望、脱衣場の室温やお湯の温度など細かく把握し入浴が楽しい物であるように取り組んでいる	希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴の支援を行っている。また、夏場は出来るだけ、毎日入浴できるようにして清潔の保持に努めている。ときには、ゆず湯、薬草湯、菖蒲湯、温泉気分を味わえる入浴剤などで季節を感じながら入浴を楽しんでもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠周期を把握しており希望に合わせて休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無い取り組みは徹底して行い実施している。全ての職員が利用者全員の薬を理解はできていないが必要な時はすぐに閲覧できる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事を多く取り入れている。また日々の生活の中でも楽しみが持てるように、一人ひとり個別に楽しみが持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせての外出の機会を設けている。普段はいけないような場所への希望があれば可能な限り柔軟な対応をしていきたい。散歩や買い物などは希望の都度外出できている。	日常的には近所のドラッグストアやコンビニ、菓子店等に散歩を兼ねて出かけている。外出が困難な利用者には気候のいい日は庭で日光浴やテントを張ってミニ喫茶や食事を行うなどして出来るだけホーム内に閉じこもらない生活を支援している。毎月、外出のレクリエーション(初詣・季節の花見・遠足・駅伝応援・運動会・イルミネーション見学等)も取り入れ、ときには、手作り弁当持参で出かけることもあ	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	所持できる能力のある方は本人本位で使えている。管理はできないが心配のある方は、模擬の食事券などを発行するなどの支援をしている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	家族からの申し出ではあるが定期的に電話で遠方の家族と話されている		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節感が出るような置物や工作品の展示をしたり、加湿器や空気清浄機他暖房器具等で室内の湿度温度を細かく調整している。	6名の少人数のホームのため、ほど良い広さの家庭的な共用空間となっている。生活にメリハリができるように食事のダイニングとくつろぎのリビングに分かれており、リビング部分にはこたつも置かれ、暖をとりながらおしゃべりを弾ませている。加湿器、空気清浄機が置かれ、換気に対する配慮もなされている。ホーム内のショーケースには利用者の作品を展示して、来訪者の目を楽しませている。身体状況により不安や寂しさを感じることもないよう日中を過ごしてもらえる静養室も作られている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	一人ひとりの身体能力や、利用者間の人間関係などを考慮し、居間にソファやコタツを設置し思い思いにくつろげる空間づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居までの案内をする際には、出来るだけ着慣れた服や馴染みの品物を持ってきていただく様にご案内している。</p>	<p>本人が居心地良く過ごせるように使い慣れた物品を持ちこんでもらっている。また、家族の協力をもらいながらこれまでの生活習慣に合わせてリフォームするなど安心してホームで生活出来るように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>場所の理解のために張り紙や暖簾等を設置するなどして個々の理解度にあった配慮をしている</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない